

『ハンチバック』 文藝春秋  
市川 沙央／著

中学2年の頃から背骨がS字に大きく曲がり、寝たきり同然の病を患った井沢釈華は、自らをハンチバックの怪物とやゆする。両親が残してくれた財産のおかげで金銭的な苦労はない。ウェブライターの仕事と通信制大学で日々を過ごしつつ、SNSの誰もものぞかないアカウントに過激な思いを投稿していたが、ホームヘルパーの田中がそれを見たと知り、動揺する。



健常者とは違う、どうにもならない体。変えられない運命を客観的に描写する。さまざまな立場の人間の、さまざまな考え方。バリアフリーとは、知らないことを知ることから始まるのかもしれない。  
第169回芥川賞を受賞。